鴨合

つりし梅田三彦、

〔尺素往來〕賀茂競馬幷深草祭、上下之見物、鶯鴨之鬪鳥可有此時歟、

〔競物名彙下〕春村曰、此文に據て考ふるに、上卷に載する鴨合も、疑ふらくは鴨の寫誤なるべし、鴨字を鴨とかける本もあるうへに、鴨は飼鳥とせし例も見えねば、とにかくにおぼつかなし、

鴨合

〔玉海〕承安三年三月廿二日甲寅、入夜參女院御方、近日事外有御減爲悅云々、先是中將定能朝臣來、來月院中可有鴨合○鴨合、一本作鶏合、云々、公卿殿上人北面分方、　五月二日、此日院中有鴨合○鴨合、一本作鶏合、事、公卿殿上人已下、北面上下僧入道等、左右念人其數繁多云々、左打錦幄、右作黑木假屋云々、各其風流盡善盡美、但右殊依有禁制、不用金銀錦等之類云々、然而甚優美也、摸臨時祭舞人插頭花等云々、左乖制法盡金銀云々、凡此經營、其費不可勝計云々、左頭大納言重盛卿、右頭中納言國綱卿云々、左右念人之外餘人所不見云々、子細尋參仕之人可記置之、綽希有也、　三日甲午、今日北面鴨合、○鴨合、一本作鶏合、內々事也、

〔百練抄八高倉〕承安三年五月二日、於上皇○六條御所有鴨合事、近習月卿雲客及北面下﨟等分左右爲念人、綽起兼日之儀、爲當時之壯觀、有勝負舞、

〔競物名彙上〕春村曰、右鴨字或は鴨に作れり、もし鴨に從ふべき歟、されど寛喜二年六月廿二日明月記に、一日比在信成前相公宅、翫鴨鳥云云といふ事も見ゆれば、ひたぶるにさも決めがたし、猶鴨合條にも云を見るべし、

鳩合

〔明月記〕建暦二年七月十日、今日前大納言實輔卿於西坊城泉□鳩合負態云々、　十二月十日、今日於馬場殿有鳩合負態、左金吾經營也、其風流只金銀錦繡、盡善盡美云々、

〔明月記〕承元二年九月廿七日、夜半許西方有火、望之煙甚細高、　朱雀門燒亡云々、末代滅亡、慟哭而有餘、依所勞久籠居、不出門、　廿八日、傳聞、常陸介朝俊生干朝澄卿末孫、只以弓馬相撲爲藝、殊官也、取松明昇門、取鳩、